

2019年大納会

2019年12月30日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。
福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、45名の市場関係者の皆様にご出席いただき、小田原理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穏と景気の拡大、証券界の益々のご繁盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶
(2019年大納会)

理事長の小田原でございます。令和元年、2019年の大納会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、この1年間、会員証券会社の皆様をはじめ、市場関係者の皆様、大変お疲れ様でございました。

お陰様をもちまして本日、本年の取引業務を滞りなく終了し、このように無事、納会を執り行うことができました。皆様方に感謝申し上げますとともに、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本年でございますが、なんとといっても、5月には新天皇が即位され、年号も平成から令和へ変わり、新しい時代の幕開けの年でありました。新年号は大宰府ゆかりということもあり、当地では大いに盛り上がりました。

6月には福岡でG20財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、世界各国の首脳、要人が福岡に集結しました。

9月・10月には、ラグビーのワールドカップが開催され、九州各地でも熱戦が展開され、初のベスト8という快挙に日本中が湧きあがりました。「ワンチーム」という言葉、さらには「多様性」ということも意識させられました。

一方、本年の経済情勢ですが、年間を通じて、米中貿易摩擦の動向が、少なからず実体経済に影響を及ぼしていますし、10月には消費税の増税もありました。しかしながら、いろいろな諸施策もあり、どうにか安定を保った1年ではなかったかと思っています。

株式市場をみてみましても、本年の大発会は、日経平均が2万円を割り込むという厳しいスタートとなりましたが、その後は、回復基調をたどり、一時「下げ」の局面もありましたが、秋以降、米中貿易協議での部分合意等、世界経済の先行き不安が和らいだこともあり、一時は2万4千円台と年初来の高値もつけ、概ね緩やかな上昇基調で推移いたしました。

さて、本年の福証の売買の動向でございますが、本年は、市場全体として、米中の貿易摩擦の行方を見極めたいとして、積極的な投資を手控える

投資家も多く、低調に推移いたしました。福証におきましても、売買代金は前年を23%程度下回り、速報値ですが214億円となり、一昨年と同水準となりました。

一方、新規上場についてですが、本年は4年ぶりに2社の福証単独上場がございました。6月に本則市場に大英産業が、9月にQボードにピー・ビーシステムズが単独上場を果たされました。売買活性化の面からも大変喜ばしいこととございました。

又、一方、4年前に単独上場されたLibWorkは、本年、東証マザーズへ重複上場されました。

九州を中心にこの地で上場を目指すスタートアップ企業・ベンチャー企業の皆さんが、先ず福証に上場し、経験をつまれ力を蓄えられ、次のステージへ展開する。こういう流れが定着すればと願っているところです。

いずれにしても、今後とも、地域経済の活性化のためにも、「新規上場の推進」が重要であり、今後とも努力していきたいと思っています。

さて、私共福証でございますが、本年は福証設立70周年という節目の年でございました。無事、70周年を迎えることができましたのは、これも一重に、九州の経済界、行政、各支援機関、それから銀行・監査法人、会員証券会社の皆様の強力なご支援をいただき続けた「おかげ」でございます。

これを機に、この70年の重みをしっかり胸に刻み、地方取引所として直接金融市場としての役割を十分に果たし、地域経済の発展に貢献していこうと、役職員一同、決意を新たにしている次第です。

皆様方には、引き続き、ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方、この1年間本当にありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さい。